

重点施策	豊かな人間性の育成	評価実施者	所 属	教育総務課
		職・氏名	課長	杉原 慶紀

重点 施策 の 概要	目 的		子どもの発達段階に応じた、規範意識や公正な判断力、粘り強くたくましく生きる力、自他の生命を尊重する心、共に助け合って生きることの体得など、基本的な倫理観を身に付けさせるとともに、郷土に愛着を持ち、郷土で育ったことに幸せと誇りを持って語ることができる、日本や世界で活躍する子どもを育成します。					
	今年度の 主要事業		①道徳教育の推進 ②心の教育推進事業の充実 ③読書活動の充実					
事業の 目標と 実績	区 分			単位	H25	H26	H27	特記事項
	1	小学生が将来の夢や目標を持っている	目標	%	92.9	92.9	92.9	滝川：全道の比較
			実績		85.7：86.0	78.1：84.4	82.9：85.0	
	2	中学生が将来の夢や目標を持っている	目標	%	80.3	80.3	80.3	滝川：全道の比較 減少
			実績		68.6：72.2	69.4：70.6	65.2：70.6	
	3	小学生 いじめはあってはいけないと思う	目標	%	100.0	100.0	100.0	滝川：全道の比較
			実績		94.2：95.1	95.1：95.7	95.9：96.0	
	4	中学生 いじめはあってはいけないと思う	目標	%	100.0	100.0	100.0	滝川：全道の比較 増加
			実績		89.1：91.1	88.4：91.4	92.5：92.1	
	5	小学生が家や図書館で一日30分以上読書する	目標	%	39.8	39.8	39.8	滝川：全道の比較 増加
			実績		29.6：34.9	33.4：36.9	36.3：36.5	
	6	中学生が家や図書館で一日30分以上読書する	目標	%	35.2	35.2	35.2	滝川：全道の比較 増加傾向
実績			33.4：32.9		41.4：34.0	35.7：33.1		

事業の分析効果の検証	①道徳教育の推進・・・児童生徒に生命を大切にすることの心や思いやりの心、倫理観や規範意識など道徳教育の充実のため、道徳の研究授業や実践発表会を通じて教職員の指導資料の発行を行うとともに、教育委員会HPにおいて研究成果を発信し、その充実を図ることができた。 27年度 ⇒3校の研究授業と実践発表の資料集の配布・HPでの研究成果の発信、北海道道徳教育推進校事業指定(1校) ②心の教育推進事業の充実・・・いじめや不登校など児童生徒の問題行動の実態把握、早期発見・早期対応を図るための体制の充実を図ることができた。また、学校配置のスクールカウンセラーが教育相談など効果的な活動ができた。 27年度⇒学校訪問事業年2回実施、スクールカウンセラーの相談件数 小学校325件(26年度406件)・中学校644件(26年度599件) ③読書活動の充実・・・図書館と連携して本に触れる機会を増加させ、学校の朝読書や学級文庫など読書活動の充実につながった。
課題	①道徳教育の推進・・・子どもたちの心に響き、心を耕す道徳授業の内容が一層充実するよう実践研究や教材開発の支援を行う。また、道徳の教科化に向けた研究を推進する。 ②心の教育推進事業の充実・・・いじめや不登校等問題行動の対応にあたり、学校と教育委員会が連携して実態把握や子どもの個別の予防対策など、きめ細かい取り組みが必要である。

評価	B	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 「いじめはあってはいけないこと」の意識化について小中学校ともに向上が見られたが、100%になるよう道徳指導や学校における児童生徒の主体的活動を一層支援し、さらに推進しなければならない 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 子どもたちや保護者等からの情報を得るための相談・通報体制の充実といじめ防止に関わる関係機関・団体との連携を深める必要がある。
----	---	---

【評価の区分】

- A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
 B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
 C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
 D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	引き続き事業を実施し、成果を上げるよう推進する。
	☒ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピートアップ ☐ 検証 ☐ 継続

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	いじめがあってはいけないと回答する児童生徒の割合が100%になるよう努力して欲しい。
---------------	--